







ウィンドウの左端に縦にアイコンが並んでいます。この縦長のエリアを  バーといいます。一番上のアイコン(  )は  で、フォルダやファイルをツリーで表示します。ここでのコンテンツは、アイコンで表現されますが、このアイコンを拡張(  )によって変更可能です。**Material Icon Theme** をインストールして、  をクリックして表示される設定メニューの  のテーマで **Material Icon Theme** を選択してください。

 でフォルダを選択した状態で、  +  + **F キー** で、フォルダ内にある  ファイルを対象に、文字列検索を実行できます。例えば、**select** と入力して検索し、**-select-** と **select \* from** 等が一覧として表示された場合 SQL のみを対象としたい場合は、  をクリックして  を使用します。検索用文字列は **[^-]select** と入力してください ( 置換処理も可能ですが、多くの失敗を避ける為ここでは使用しないでください )。

エディタで単一のファイルを開いている場合は、検索処理は **CTRL +  キー** で文字列入力のツールが表示されます。置換する場合は、**CTRL +  キー** です。**エディタ上の文字列を使用して検索** したい場合は、**ワードならば任意の場所をクリックして**、**CTRL +  キー** で検索対象の文字列が決定して、 キー で次の文字列へ移動します。逆に戻りたい場合は、 キーを押しながら先ほどのキーを押します。**エディタ上の文字列を使用して置換** したい場合は  +  + **L キー** です。その後置換したい文字列を入力すると全てが変更されます( または、右クリックして**全ての  を変更** )。

矩形選択をしたい場合は、  +  でカーソルをドラッグして下さい。また、コピーしたソースコードを貼り付けした場合、自動フォーマットの機能で元の形が崩れた場合は、  + **Z キー** で戻してみてください。

エディタのコマンドに、**末尾の空白のトリミング** というものがありますが、`files.trimTrailingWhitespace` という設定を `true` にすると保存時に行ってくれます。ソースコードの編集時に実行したい場合は **CTRL +** を押してから **CTRL +** を押すというショートカットが元々定義されています。この機能を UI から実行するには、**ステータスバーの右下のキャラクタセットの左横の表示( スペース: 4 UTF-8 )** をクリックして表示されたメニューから**末尾の空白のトリミング**を実行します。

その他全てのエディタ表示を閉じるコマンドを **CTRL +  キー** に、  の表示を全てキャンセルするコマンドを **CTRL +  キー** に登録しています。大文字小文字への変換は、**CTRL +  キー** と **CTRL +  キー** に登録しています。

エディタを開いている時に  + **G キー** で、GYO( 行 ) ジャンプする為のコマンド入力が開きます。現在の行を選択するには、**CTRL +  キー** が使用できます。関数やメソッドの文字列部分をクリックして、**SHIFT +  キー**を押すと、特別なウィンドウで参照されます。

ファイルをバイナリ表示して確認する為に、拡張から **Hex Editor** と **Inspector Hex** をインストールしてください。これらの拡張でファイルを開くには、エディタのタブを右クリックしてエディターを  アプリケーションの選択を選択して **Hex Editor** または **Inspector Hex** を選択します。Hex Editor は実際にデータを変更可能なので注意してください。データをバイト単位で選んで、その場所の10進数の値をすぐに参照できます。ただ、Hex Editor では UTF-8 の  をそのまま表示する事ができないので、Inspector Hex を使用して  より UTF-8 を選択してください。